

北陸新幹線開業記念

色絵磁器の名陶 九谷焼



県文「色絵鶉草花図平鉢 古九谷」江戸前期 当館蔵

■ 西洋へのあこがれ -16代前田利為侯のコレクションから-

■ 古九谷の誕生と展開

■ 友禅の名匠 水野博

■ 日本画構図大研究

■ 近代版画・石川の近代彫刻家たち

- 3月の企画展示室
- 企画展Topics
- 展覧会回顧
- 3月の行事予定
- 所蔵品紹介

北陸新幹線開業記念 色絵磁器の名陶 九谷焼

3月6日(金)～20日(金) 会期中無休



「色絵象人物図角皿 吉田屋窯」
江戸後期

第2・8・9展示室

学芸員の眼

『九谷焼』という呼称は、全国的に広く普及していることと思われませんが、その言葉からどのようなイメージが喚起されるでしょうか。一般的に、呉須で文様を線描し、その上に五彩の釉薬を厚くかけて表現した色絵のやきものという印象でしょうか。しかし、本展をご覧いただければわかるように、それだけにとどまらず、呉須赤絵風のもの、赤絵細描のもの、彩色金襴手のほか、金彩、銀彩、染付など、表現は多様で、もっと幅の広い概念であるといえることができます。その多様性は、江戸時代から今日まで、歴史の変遷に応じてさまざまに試みがなされてきた結果であり、たとえば線描を行わず色の変化によってのみ美を創出する三代徳田八十吉氏の作品に見るような、革新的な表現も生み出されているのです。

江戸時代、明暦年間に興った九谷焼。古九谷に始まり、後世に再興九谷といわれる金沢の春日山窯、小松の若杉窯、小野窯、江沼の吉田屋窯、宮本窯、永楽窯など数多くの特色ある窯が開かれました。

江戸末期から明治初期にかけて、寺井の九谷庄三が繊細で華麗な彩色金襴手を広め人気を呼び、海外にも輸出されるようになり、明治以降の九谷に大きな貢献を果たしました。その後伝統は脈々と受け継がれ、昭和五十年には伝統的工芸品産業に、翌五十一年には石川県無形文化財の指定を受けています。

九谷焼の命ともいえる上絵付には、緑・黄・赤・紫・紺青の五彩が使われ、古九谷風、吉田屋風、永楽風、庄三風などその画風は多岐にわたります。

本展では、北陸新幹線開業を記念し、石川を代表する工芸の一つ、九谷焼の流れを概観します。江戸・明治・大正・昭和それぞれの時代を代表する九谷の優品とともに、現代の九谷である「伝統九谷焼工芸展」とあわせてご鑑賞いただき、その魅力を感じ取っていただきたいと思います。

■会場

第二展示室／江戸時代の九谷焼
第八・九展示室／明治から現代にいたる九谷焼

■観覧料

一般／五〇〇(四〇〇)円 大学生／三〇〇(二〇〇)円
高校生以下無料 (内は二〇名以上の団体料金
※第三十八回伝統九谷焼工芸展を含む、全館料金)

■主催 石川県立美術館

協力 石川県九谷陶磁器商工業協同組合連合会

■同時開催

第三十八回伝統九谷焼工芸展

三月六日(金)～二十日(金)(第七展示室)

※九谷焼技術保存会が主催する、現代の九谷焼の公募展です。

■九谷茶碗まつり in 金沢

三月十四日(土)～二十日(金)

※当館ロビーにおいて、石川県九谷陶磁器商工業協同組合連合会による即売会が開かれます。

■関連企画

講演会と邦楽コンサート

三月十四日(土) 午後二時～三時三十分頃

会場／美術館ホール(定員二〇〇名)

申込不要、入場無料

※いしかわ子ども邦楽アンサンブルによる合奏、石川県筆曲連盟による演奏、人間国宝 吉田美統氏による特別講演会



清水美山「色絵金彩花詰蓋物」明治42年頃



県文「青手桜花散文平鉢 古九谷」江戸前期



三代徳田八十吉「耀彩鉢「極光」」平成4年

第2展示室

古九谷の誕生と展開

2月11日(水・祝)～3月22日(日) 会期中無休

前回は、「古九谷には美の高さがある」と評した谷川徹三氏の言葉を紹介し、そのことが古九谷プロジェクトを推進した、加賀藩三代藩主前田利常が目指したことであったと述べました。色絵磁器に「美の高さ」を追求するためには良質の素地や釉薬、そして高い技量を持った画家の確保と、自由に生産できる窯や工房などを整備する必要があります。そして何よりも、プロジェクトを推進する実行力と洗練された美意識を持った人物の存在が欠かせません。

そうすると一六五八年に前田利常が亡くなったことは、古九谷プロジェクトにとって大きな痛手であったことは明らかです。さらにその二年後には、利常の意向を受けてプロジェクトを実現した大聖寺藩初代藩主の前田利治も亡くなります。こうした事実を考えると、実際に加賀の地で古九谷の優品が生産されていた時期を、慎重に精査する必要があります。



県文「色絵布袋図平鉢 古九谷」

前田育徳会尊經閣文庫分館

西洋へのあこがれ

—16代利為侯のコレクションから—

2月11日(水・祝)～3月22日(日) 会期中無休

先月号の美術館だよりでは、十六代前田利為侯を紹介したので、今回は、作品を具体的に紹介します。冒頭を飾るルノアールの「アネモネ」は、利為侯がイギリス滞在中(昭和二～五年)に岡見富雄画伯の仲介で求めたもので、前田育徳会には、岡見から利為侯あての手紙があり、そこには「ルノアールの小品ながら、素晴らしいもので、私の調べによると、ルノアールの円熟期にて彼の亡くなる十八・九年前の作品…」と記されているようです。岡見(一八九〇～一九六五)は東京に生まれ、東京美術学校卒業後、渡仏してアマン・ジャンに師事しました。前田家にはアマン・ジャンの作品(展示中の「婦女喫煙図」など)も所蔵されていますが、岡見の

仲介によるものと思われまます。利為侯は、渡欧中の大正十年の秋から、ヨーロッパの貴族たちが肖像画を描かせる伝統に倣って、自分たちの肖像画を当時の一流画家に依頼しました。利為侯はウンベル画伯、漢子夫人はバッシェ画伯に依頼して、翌年の三月と四月にそれぞれ完成しています。その制作中の写真も、前田家には残されています。利為侯の肖像画はウンベル画伯の自信作だったことから、春季パリ絵画博覧会に出品されています。激動の時代を歩まれた御二人の姿を偲んでいただければ幸いです。

ウンベル「前田利為侯」

第6展示室

日本画構図大研究

2月11日(水・祝)～3月22日(日)
会期中無休

近世より前の日本絵画の構図的特徴に、山水画で多く見られた三遠と、やまと絵に多く見られた平行遠近法が挙げられます。今回は「これらの伝統的な構図が現代絵画にどのように展開したのか」を具体的な作品から読み取ってみましょう。

まず三遠は、山水画のうち、とくに中国北宋画に源流を持つ遠近法で、高遠、深遠、平遠からなります。高遠とは山の下より頂を仰ぐような見方をい、奥行きを山の高さで表現するのに適します。深遠は、山の前方から山の奥後方を見通すような見方で、山々の重なりから深い豁谷の幽玄さを狙います。そして平遠は、近くの山から遠くの山を眺望するような見方をいい、風景の広大さを表現するのに適します。現代日本画の風景画でも、意識する、しな

いに関わらず三遠に当てはまる作品が多々あります。石川義の「ダムのある風景」は、緑多い自然の景観に人工のダムという、対比の妙が冴えた作品です。高い視点から開けたダムの堤防を見る構図は、三遠のうち平遠に位置します。

そして平行遠近法とは、建物の軒と縁などの平行に位置する線が、遠くに行っても狭くならない描法です。遠くの物ほど小さく描く西洋的な遠近法とは明らかに違います。山本知克の「朝日の当たる街」は、ヨーロッパの街並みを鳥瞰した現代日本画の作品ですが、よくみると平行遠近法で描かれており、緻密な作画をすることの画家の、やまと絵を意識した確信的な作意が感じられます。どうぞ、展示会場でご確認ください。



石川義「ダムのある風景」

第5展示室

友禅の名匠 水野博

2月11日(水・祝)～3月22日(日)
会期中無休

第5展示室では壁面のガラスケース全面で、友禅作家・水野博の作品を一堂に展示しています。水野の作品は、春夏の花をモチーフにしたものが多く見られます。図版で紹介した「友禅訪問着 芽」は、芽吹きつつある枝を描いたものですが、巧みな描写で植物の生命力を表し、色づかいかや背景との絶妙な調和を見せる作品です。水野の技術や表現力は、京都で学んだ二人の師匠の影響が大きいでしょう。

金沢出身で同郷の弟子を多く育てた土屋素秋は、金沢で日本画家の玉井敬泉に学びながら、友禅の修業に励んだ後、京都の紺谷静蕉に師事して京友禅の技術を習得、京都で独立しました。弟子たちには写生の大切さを繰り返し言いかせ、運筆の修業のために日本画を学ぶことを進めていました。水野は生

涯、草花のスケッチのために足繁く兼六園へ通っていました。師の教えを理解し実践していたことがうかがい知れます。

水野が京都で日本画を学んだのは、同じく金沢出身の池田瑞月でした。池田の業績で最も知られているのは、実業家・加賀正太郎の依頼により、所蔵する洋ランを木版画・油絵等で表した『蘭花譜』の原画制作です。細密な蘭の描写には、池田の鋭い観察眼と高い技術を見て取ることができ、対象の本質を浮かび上がらせるような、水野の草花の描写にも、池田に通じる細やかな視点を感じさせます。

厳しい冬を乗り越えて、花咲く春を迎える喜びを表すことが、終生のテーマであった水野の作品群をご覧ください。



友禅訪問着「芽」

第4展示室

石川の近代彫刻家たち

2月11日(水・祝)～3月22日(日) 会期中無休

ここでは代表的な作品を御紹介します。金沢市生まれで当県を代表する彫刻家の一人である吉田三郎作「波」は、作者の後、晩年の代表作の一つで、伸びやかな姿態の男性像です。輪島市生まれで我が国の金属造形の第一人者でもある木戸修作「SPIRAL3-TUKU」は鏡面磨したステンレスの熔接作品で、周りの風景を映して伸びやかな形態を示しています。ともに空間性を意識させてくれる作品で、前者は空の上に広がるかのような上昇性としなやかなフォルムを表し、後者はメビウスの帯のような空間の不思議さと素材の特性を引き出した作品です。



吉田三郎「波」

第3展示室

近代版画

2月11日(水・祝)～3月22日(日) 会期中無休

近代化が進む大正期の日本で、版元、画家、彫師、摺師が伝統的な技術と知識を活かしつつ、新しい時代の新しい芸術を追究した版画が「新版画」です。版元の渡邊庄三郎は、浮世絵商で複製の仕事と浮世絵の研究を通じて良質の古版画と向き合う中、この時代にふさわしい版画の創造を求めました。この願望は橋口五葉との出会いで実現し、その後、伊東深水、名取春仙、山村耕花、川瀬巴水らと共作、美人画・役者絵・風景画という浮世絵の主要なジャンルを揃えることとなります。当時の浮世絵版画は肉筆の複製手段と化していました。それに挑戦するように画面に様々な表情を演出し、版表現の豊かさを画家それぞれの個性と共に見せる作品を、次々と世に送りました。



伊東深水「新美人十二姿・口紅」

兼六園周辺文化の森

いしかわの伝統にふれる春

北陸新幹線金沢開業イベントとして、当館ホールを会場に行われる催し物をご案内します。 ※詳細は同封のチラシをご参照ください。

三月十四日(土) 十四時～ 石川県立美術館ホール 参加無料

■邦楽コンサート

出演／いしかわ子ども邦楽アンサンブル
石川県箏曲連盟 藻寄洋子 高橋志乃婦 大宮明恵 幸田雅恵

■人間国宝 吉田美統氏による特別講演会

講師に、陶芸作家で人間国宝(釉裏金彩)の吉田美統氏をお迎えし、約一時間の内容で講演いただきます。

第3展示室の後半と第4展示室の一壁面を使って油絵部門の優品選をご覧ください。宮本三郎、高光一也、村田省蔵、藤森兼明など芸術院会員達の作品に、鴨居玲を交えた写真を基調とした会場と、上條陽子や田賀亮三、古川通泰など、抽象と幻想の作品によるコーナーの二部構成です。



鴨居玲「1982年私」

第3・4展示室

油絵優品選

2月11日(水・祝)～3月22日(日) 会期中無休

第7展示室

第38回

伝統九谷焼工芸展

3月6日(金)～20日(金) 会期中無休

第8・9展示室

'14玄土社書展

3月1日(日)～3日(火) 会期中無休

玄土社の二〇一四年の歩みをまとめた創作(前衛抽象四十八点)、臨摹(古典の厳密な模写二十三点)を展示します。創作は自由奔放にチャレンジ精神をもって、臨摹は古典に忠実に。この基本姿勢に揺るぎはありません。書的な約束ごとを振り払って、思いのままに表現する開放感と、古典と真摯に向き合う緊張感を愉しみながら、これからも古典の書、現代の書を探り続けます。前衛作品に鑑賞のマニユアルはありません。作品から伝わってくる何かに、いろいろ想像力をめぐらせて自由に楽しんで下されば嬉しいです。

◆入場無料

◆「表立雲トクタイム」

テーマ「古典(漢字完成への道のり)」と作品(個性の表現)」

日時／三月一日(日) 午後一時三十分～

◆連絡先／金沢市本多町一七七一五

電話 ○七六一二六三一〇一二二

昭和五十一年に認定された石川県指定無形文化財保持団体九谷焼保存会が、技術保存・発展向上を図るための事業として毎年行っている公募展で、今回は三十八回目となります。入選作並びに九谷焼技術保存会会員の作品を一堂のもとに展示します。

なお今回は、同時期に開催される「色絵磁器の名陶 九谷焼」展及びコレクション展も観覧できる全館料金となりますので、ご了承ください。

◆入場料／一 般五〇〇円(四〇〇円)

大学生 三〇〇円(二〇〇円)

高校生以下無料

※()内は二十名以上の団体料金になります。

当館友の会会員は、会員証の提示により団体料金になります。

◆連絡先／石川県九谷会館 能美市泉台町南十三番地

電話 ○七六一一五七一〇一二五

展覧会回顧

高山右近とその時代

本展は、二月三日が高山右近没後四〇〇年の節目にあたったことから、新春特別展との位置付けで開催されました。右近が生きた戦国時代から天下統一に至る激動の時代を貴重な資料、作品によって重層的な視点から捉え直すとの趣旨から、第一章を「高山右近」、第二章を「南蛮美術」、第三章を「北陸ゆかりのキリシタン遺物」、以上の構成としました。本展をとおして、ささやかながら右近の生涯と人物像に新たな光を当てることができたのではないかと思います。特に、右近が晩年の二十年間を金沢で過ごしたという事実が改めて周知されたこと、右近の生涯が、経済的な指標にとられない新たな価値観を創出することが喫緊の課題となるこれからの社会に、貴重な示唆を与えてくれるのではないかと、展覧会のメッセージが、複数の新聞紙上に取り上げられたことは大きな成果でした。

反面、展覧会会期中の週末には寒波に見舞われるなど天候要因によって、昨年の同時期にくらべて来館者数が全体的に落ち込んだことはいささか残念でした。しかし関連イベントとして開催した土曜講座や百万石の文化講座はいずれも大盛況で、今後の確かな手応えを感じました。最後に、本展の趣旨にご賛同いただき、開催にあたり貴重な作品、書誌、資料をご出品くださったご所蔵者の皆様、そして様々な形でご協力いただいた関係各位に改めて厚く御礼申し上げます。



加賀前田家 百万石の名宝 一尊經閣文庫の名品を中心に

会期：平成27年4月24日(金)～6月7日(日)

かつてない規模による

前田育徳会・尊經閣文庫の名宝 初公開!!

加賀藩前田家の歴代藩主は文化に深い関心を寄せ、殊に三代藩主前田利常から五代藩主前田綱紀に至る江戸時代の前期に「加賀文化」は確立されました。利常は大藩で外様大名という前田家の存在意義を、文化政策に求めました。それは徳川幕府に対する独自の主張とその警戒をやらざるを得ない目的を、理想的な形で融合するものでした。同時代の後水尾天皇を範とすることで、京の都における超一流の文化を学び吸収しながら、加賀の文化の礎を築いていきました。利常は茶の湯の精神を骨格とした美術工芸品や内外の文物を、綱紀は学者大名と称されるように文書・典籍類を中心に名品を収集し、その後には続く藩主たちも文物の収集や美術工芸の発展に力を注ぎました。

その後明治維新という大きな時代変革を迎えますが、十六代前田利為侯は江戸時代に収集されたコレクションをさらに充実整備することで、大正十五年(一九二六)に育徳財団を設立し、今日では(公財)前田育徳会として、国宝二十二点、重要文化財七十六点を含むわが国有数の文化財の宝庫となっています。

本展では、北陸新幹線金沢開業を記念して、かつてない規模による前田育徳会の所蔵品を中心とした加賀藩前田家ゆかりの名品のなかから、国宝十五点、重要文化財三十五点を含む約一三〇点により、藩政時代に大輪の花を咲かせた「加賀百万石の文化」の全貌を公開し、広く石川県、金沢の魅力を発信いたしますので、ごうぞうし期待您的。

重文
「金小札白糸素懸威胴丸具足」
前田利家所用

平成二十七年年度

美術館バスツアー予告

今年度、春の日帰りバスツアーは、四月二十六日(日)に行う予定です。羽咋市と七尾市にて、寺院や美術館を見学します。

訪問先は、国宝「楓図」が特別公開される七尾美術館「長谷川等伯展」、前田家の篤い庇護のもと発展した妙成寺、世界のガラス芸術を堪能できる能登島ガラス美術館ならびにガラス工房、そして寛永期の伽藍を擁する永光寺などを予定しています。

詳しい日時や内容、募集要項は次号にてご案内いたします。

三月の行事予定

| | | | | |
|--------|---------------------|---------|------|-------------|
| 7日(土) | ■土曜講座 | 午後1時30分 | 聴講無料 | 美術館講義室 |
| | 名作に学ぶ日本画の構図 | | | 前多武志 学芸専門員 |
| 21日(土) | ■映像ギャラリー | 午後1時30分 | 入場無料 | 美術館ホール |
| | 仏教の興隆と天平彫刻 2 | | | 谷口 出 学芸第一課長 |
| 15日(日) | シリーズ北陸の工芸作家石川の匠たち | | | (24分) |
| | 即是色 人間国宝 三代徳田八十吉 | | | (20分) |
| | 炎と土と色 文化勲章受章者 浅蔵五十吉 | | | (43分) |
| | ぐい呑から環境造形まで | | | (32分) |
| 22日(日) | 油裏金彩 吉田美統のわざ | | | |
| | 日本芸術院会員 武腰敏昭 | | | |
| 22日(日) | 映画 亜欧堂田善 | | | (28分) |
| | 極める8 消えた古九谷色絵・青手の出現 | | | (25分) |

色絵麒麟図輪花鉢

いろえきりんずりんかはち 文政11年(1828) 口径22.7×底径13.3×高さ6.6cm

吉田屋窯 よしだやがま

所蔵品紹介250



吉田屋窯は、再興九谷諸窯の中で最も芸術的評価の高い窯で、文政七年(一八二四)から天保二年(一八三二)にかけて稼働しました。現在の石川県加賀市大聖寺の豪商豊田伝右衛門が、古九谷の復興をめざして九谷古窯跡を開窯し、後に立地の良い山代に窯を移して名工を集め、芸術的完成度を追求した作品とともに日常用の量産品をあわせて生産しました。

本作は、口縁を八花とした輪花の鉢の見込中央に振り返る一頭の麒麟と、背景に松・竹・梅に流水を描いています。周辺は花形の窓を四カ所設け、その内部に意匠化された牡丹花と唐草を配しています。絵具は紫・緑・紺青・黄の四彩のほか、一部に金彩を加え、高台内中央に二重角「福」字銘を記し、その左部に「文政子年(十一年)於九谷製之」を黒呉須で書き、なお下部に一重角「豊田」字銘を記して緑彩しています。

吉田屋窯の名工として、粟生屋源右衛門、越中屋幸助そして鍋屋丈助が知られています。本作の見込は、表現の特徴から鍋屋丈助が関与したと考えることができます。丈助の娘二人も吉田屋窯で制作に従事していることから、本作は丈助親子の合作という見方もできるのではないのでしょうか。

※第2展示室 特集「古九谷の誕生と展開」で三月二十二日(日)まで展示中。

ご利用案内

コレクション展観覧料

一般 360円(290円)
 大学生 290円(230円)
 高校生以下 無料
 ※()内は団体料金
 毎月第1月曜日はコレクション展示室
 無料の日(3月は2日)

今月の開館時間

午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間

午前10:00～午後7:00 年中無休

3月の休館日は
 23日(月)・24日(火)

友の会手続きが始まります

三月一日(日)より、来年度友の会新会員の募集、更新手続きが始まります。お申込みは郵便振替をご利用いただくか、直接県立美術館でお手続きください。

現在会員の方も、更新の手続きを
 お願いいたします。

■有効期間 平成二十七年四月一日

～平成二十八年三月三十一日

■年会費 二、〇〇〇円

■主な特典

- ・コレクション展の無料観覧
- ・企画展入場券進呈
- ・企画展の開会式(開会式がない場合は初日)にご招待
- ・入館料の割引
- ・最新情報をお伝えする美術館だより(本誌)を毎月送付
- ・館内カフェにてドリンクの割引



新しい会員証に使用する作品は、確かな伝統技法と古典の知識に裏打ちされた美人画や歴史画を得意とした金沢生まれの日本画家、紺谷光俊の「龍田姫之図」です。

Meiカード

ポイントプラスデー

毎週水曜日は
 エムザでお買物

Meiカード
 通常ポイント

+

3%
 ポイント
 プラス

MEITETSU
 MIZA

めいてつ・エムザ

金沢 むさし TEL(076)260-1111(代)
 www.meitetsumza.com
 10時～19時30分(地階レストラン街・書籍は21時まで)

※催事場、地階食品売場などご奉仕品は、通常通りのポイントとさせていただきます。詳しくは売場係員におたずねください。

石川県立美術館だより
 第377号(毎月発行)
 2015年3月1日発行
 〒920-0963
 金沢市出羽町2番1号
 Tel:076(231)7580
 Fax:076(224)9550
 URL http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/